

空豆と義母ちゃん

坂本 裕子（茨城県土浦市／55歳 女性）

義母ちゃん元気にあの世でも畑で働いてますか。義母ちゃんが逝って一年がたちました。

嫁として数年間にわたる世話をさせてもらいました。

戦いでした。キツイ介護でしたよ。

義母ちゃんが人ではなく、動物に思うことさえあったのだから。

義母ちゃんは生前、余りに丈夫だったでしょ。誰よりも野菜作りに情熱を傾けていた。九十歳まで心臓破りの坂道を上がり下がり畑へ行った。腰は曲がったけれども、足は鍛えられたね。

私はね、その坂道を歩くたび義母ちゃんを想うよ。だって私ですら年々しんどくなってる。息苦しくて足は重いしね。一輪車押して収穫した物のせて、高齢の義母ちゃんが私のことを心配して、「気をつけろ、危ない時は手を離せな。身体の方が大事。野菜はどつてもな。」っていつも言ってくれた。まるで年齢から言ったら逆の立場なのに、おかしかった。

裸足で農作業。解放感に満ちた義母ちゃん的笑容。義母ちゃんにとって一番の幸せだったろうね。

風薫る5月ー。義母ちゃんと二人で毎年空豆の収穫に精を出した。

うちの空豆は一番。甘くて大粒でツヤツヤ。空豆の作り方教わった。

義母ちゃんが動けなくなり、私が引き継いだ。けっこう上手いよ。義母ちゃんに負けていないから安心して天国から見えて。いやいや、義母ちゃんも忙しくて見るヒマないか。自慢の空豆、変わらず立派に作ってますか。私と競いましょう。どれ位の人においしかったって喜んでもらえたかー。

収穫時の、義母ちゃんの空豆を木からもぎるガリガリ、ポリポリ、音が耳に聞こえてくるよう。楽しかったね。見事で人に出すのも自分等で食べるのも、もったいない位のが沢山なあって、なって。写真とったり飾っておいたりしたかった。出荷して、私たちが食べるのはクズ豆。と言っても味は変わらないから。

今年はね、義母ちゃんの成仏を願って一番の空豆を仏だんに供えるよ。そして、一緒に食べようね。おいしい後引き豆だって言いながら。義母ちゃんにふさわしく、義母ちゃんらしく五月に逝った。さわやかな風吹く季節。空豆が実る時に。筋書きがあったみたい。

空豆の満開の花。見ると介護生活してた事まで忘れるよ。

義母ちゃんまた、一緒に作ろう。